

平成 29 年度

病害虫発生予察情報 第 15 号

9 月月報

北海道病害虫防除所 平成 29 年 10 月 18 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況

札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・多雨・多照』台風第18号が通過して大雨・大荒れ－

この期間は、上旬と下旬は高気圧の張り出しの中となつて晴れた日が多かつたが、中旬は18日に台風第18号が通過して大雨や大荒れの天気となつた他、気圧の谷や大気の状態が不安定となつた影響で雨の降つた日が多く、20日には乙部町で竜巻も発生した。気温は中旬は平年より低く、月平均気温は平年並だつた。降水量は上旬は平年よりかなり少なかつたが、中旬はかなり多く、月降水量は多かつた。日照時間は上旬は平年よりかなり多かつたが、中旬は少なく、下旬は多く、月間日照時間も多かつた。なお、1961年の統計開始以降、上旬の降水量はオホーツク海側と太平洋側及び北海道地方としても最も少なく、上旬の日照時間は日本海側に加え北海道地方としても最も多かつた。

上旬：1日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。2日は気圧の谷の中で広い範囲で曇り、雨の降つた所もあつたが、日本海側では晴れた所もあつた。3～7日は高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れたが、上空の寒気や気圧の谷の影響で雨の降つた所もあつた。8日は気圧の尾根の中となつて日本海側を中心に晴れた所が多かつたが、大気の状態が不安定となつて太平洋側東部や内陸で雨が降り、大雨となつた所もあつた。9日は気圧の尾根の中となつて広い範囲で晴れたが、寒冷前線の通過と大気の状態が不安定となつた影響で雨の降つた所もあつた。10日は気圧の谷の中で大気の状態が不安定となつて広い範囲で雨が降つたが、次第に高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。

中旬：11日は高気圧の張り出しの中となつてオホーツク海側などで晴れたが、気圧の谷が接近して雨の降つた所もあつた。12日は前線を伴つた低気圧が通過して全道的に雨が降つた。日降水量は登別市札内町で123.0mmなど。13～15日は気圧の谷の中となつて広い範囲で雨が降り、14日は大雨となつた所もあつたが、15日は次第に高気圧の張り出しの中となつて日本海側や太平洋側西部で晴れた。日降水量は14日に石狩市浜益で149.5mmなど。16～17日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、気圧の谷や台風第18号の接近で雨の降つた所があつた。18日は台風第18号が通過して全道的に雨が降り、大雨や大荒れの天気となつた。日降水量は登別市カルルスで297.5mm（通年の1位の値を更新）など。19日は気圧の谷の中で大気の状態が不安定となつて広い範囲で雨が降り、大雨となつた所もあつた。日降水量は浦臼で77.5mmなど。20日は気圧の尾根の中となつてはじめ晴れた所が多かつたが、気圧の谷の中で大気の状態が不安定となつて広い範囲で雨が降り、大雨となつた所があつた他、乙部町では竜巻が発生した。日降水量は岩見沢市5条で53.5mmなど。

下旬：21日は低気圧が通過して雨の降つた所が多かつたが、次第に高気圧の張り出しの中となり、22日にかけて全道的に晴れた。23日は高気圧の張り出しの中となつてはじめ晴れた所が多かつたが、気圧の谷の中で大気の状態が不安定となつて広い範囲で雨が降り、大雨となつた所もあつた。日降水量は登別市カルルスで51.5mmなど。24日は気圧の谷が通過して雨の降つた所が多かつたが、次第に高気圧の張り出しの中となつて日本海側や太平洋側西部を中心に晴れた。25日は高気圧の張り出しの中となつて晴れた所が多かつたが、気圧の谷の通過と大気の状態が不安定となつた影響で日本海側北部やオホーツク海側を中心に雨が降つた。26日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。27～28日は寒冷前線が通過して広い範囲で雨が降つた。29～30日は気圧の谷の中で大気の状態が不安定となつて日本海側を中心に雨の降つた所が多かつたが、オホーツク海側や太平洋側では晴れた所も多かつた。

気候表

	気温差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	-0.3	並	115	多	113	多
日本海側 10 地点平均	-0.5	低	129	多	114	多
オホーツク海側4地点平均	-0.1	並	80	並	106	並
太平洋側8地点平均	-0.2	並	115	多	115	多

(注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表しています。

II. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（穂いもち・節いもち） 発生量 やや多

予察田の「きらら 397」における穂いもちの発生量は岩見沢市、北斗市で平年より多く、比布町では平年より少なかった。節いもちの発生量は、北斗市では平年より多く、岩見沢市、比布町では平年並であった。

予察田における水稻の穂いもち発生状況

地点	品種名	発病穂率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	94.3	33.6	—	—	6
	ななつぼし	96.0	54.4	—	—	6
比布町	きらら397	50.2	73.2	57.7	81.2	10
	ななつぼし	42.7	—	70.6	—	—
北斗市	きらら397	100	33.6	—	41.1	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)本年値の—は成熟期を迎えたため調査終了

予察田における水稻の節いもち発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	11.6	12.3	—	—	6
	ななつぼし	49.6	28.6	—	—	6
比布町	きらら397	12.0	15.6	20.8	16.3	10
	ななつぼし	8.5	—	13.7	—	—
北斗市	きらら397	34.8	8.8	49.6	13.5	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)本年値の—は成熟期を迎えたため調査終了

2. 紋枯病 発生量 多

予察田における発生量は、岩見沢市では平年より多く、北斗市では平年よりやや多かった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	28.1	18.1	32.2	24.6	6
北斗市	きらら397	22.8	18.2	22.8	17.1	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. ニカメイガ 発生量 少

予察田における被害茎率は、長沼町で1.5%（平年：7.3%）、北斗市では0%（平年：1.1%）といずれも平年より低かった。

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 やや少

予察灯による成虫誘殺数は、いずれの地点においても平年より少なかった。
予察田における成虫のすくい取り頭数は、長沼町で平年並、比布町で平年より多く、北斗市で平年よりやや少なかった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	3	125.7	1	29.1	0	27.9	0	3.0	0	0.3	0	2.5
2半旬	10	59.7	9	14.5	3	6.7	1.3	1.3	10.0	0.1	0	2.8
3半旬	0	25.0	0	15.2	1	2.0	1.3	1.6	-	0.7	2.5	1.3
4半旬	0	10.3	2	11.6	0	1.9	2.5	0	-	0.5	0	1.0
5半旬	0	6.5	0	0.9	0	0.3	0	0.3	5.0	0.8	0	0
6半旬	0	3.0	0	0.1	0	0.1	0	0	-	-	-	0
平年数	10		10		10		5		10		10	

注) - : 欠測または収穫期になったため調査終了

B. 豆類

1. べと病（大豆） 発生量 少

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	5.5	35.4	-	39.8	10

注) - : 落葉のため調査終了

2. アズキノメイガ（小豆） 発生量 並

予察ほにおける被害株率および被害莢率は、長沼町および訓子府町で平年よりやや低く、芽室町で平年より高かった。

予察ほにおけるアズキノメイガの被害状況

地点	品種	被害株率(%)		被害莢率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	54.0	69.6	3.0	4.6	10
芽室町	きたのおとめ	86.0	38.3	3.1	2.0	10
訓子府町	きたのおとめ	30.0	53.7	1.5	2.9	10

C. てんさい

1. 褐斑病

発生量 やや少

<7月7日付け注意報第3号>

予察ほにおける発生量は、長沼町の「あまいぶき」では平年よりやや少なく、芽室町の「あまいぶき」では平年並であった。訓子府町の「リッカ」では平年より少なかった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(HT-39)	66.0	-	67.6	-	78.8	-	-
	あまいぶき	67.6	77.8	77.6	87.2	89.2	93.1	7
芽室町	リッカ	34.4	-	44.0	-	50.8	-	-
	あまいぶき	78.8	76.7	87.6	88.5	96.4	98.0	5
	スタウト	42.0	48.2	57.2	58.1	63.2	75.5	8
訓子府町	リッカ	49.6	74.8	63.6	84.8	72.8	91.7	8

注) -: 平年値なし

2. ヨトウガ(第2回) 発生量 やや少

予察ほにおけるヨトウガ第2回幼虫による食害程度は、長沼町では平年並、芽室町および訓子府町では平年よりやや低かった。

9月3半旬の巡回調査において、被害株率50%以上となったほ場はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの食害程度

月・半旬	食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	50.5	55.1	36	39.8	32	42.4
2半旬	61.5	59.4	40	44.5	34	46.4
3半旬	64.5	68.1	40	47.1	40	51.7
4半旬	69.5	69.8	42	52.3	47	60.1
5半旬	72.0	74.7	45	55.4	56	64.0
6半旬	72.0	78.2	48	56.9	62	64.5
平年数	10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター	地点	数	9月3半旬		普及センター	地点	数	9月3半旬							
			本年	前年				本年	前年						
空知	南東部	1	4.0	18.0	網走	本所	10	8.4	24.4						
										石狩	本所	3	10.0	10.0	清里
	後志	本所	3	5.3		4.7	網走	2	2.5						8.0
							胆振	本所	4						1.5
	上川	東胆振	3	5.3		3.7				十勝	遠軽	9	8.2	14.8	
富良野					3		6.3	20.0	本所						5
		大雪	3	11.3		18.0			東部		6	0	10.3		
									士別		1	6.0	0.5	東北部	4
名寄		2	0	4.0	北部	3	0	2.3							
	西部				3	2.7	0								
南部	3	0	5.3												

D. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 少

長沼町の予察ほにおけるだいこん（夏播き）の軟腐病の発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	夏播き	0.6	3.1	0.6	4.6	0.6	4.8	10

2. モンシロチョウ 発生量 やや少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なく、北斗市で平年よりやや少なかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	1	18.8	10	10.0
2半旬	2	11.9	6	12.4
3半旬	4	19.3	8	11.8
4半旬	12	35.7	6	15.2
5半旬	7	24.5	3	9.0
6半旬	2	25.2	4	13.4
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生幼虫数

3. コナガ 発生量 やや多

<7月27日付け注意報第4号>

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町で平年より多く、北斗市、芽室町および訓子府町で平年並であった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多く、北斗市で平年並であった。

フェロモントラップによるコナガ成虫の誘殺数と予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町		寄生幼虫数			
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	長沼町		北斗市	
									本年	平年	本年	平年
9月1半旬	69	30.2	8	3.6	0	0.6	0	1.8	6	9.2	14	7.3
2半旬	83	27.5	4	5.0	0	0.4	0	1.0	15	6.3	7	8.5
3半旬	10	16.4	9	6.2	1	0.2	2	0.5	12	5.0	1	2.0
4半旬	11	18.7	6	4.8	0	0.4	0	1.2	14	3.6	3	4.0
5半旬	18	8.9	6	6.5	0	0.6	0	0.5	10	2.8	4	3.3
6半旬	6	9.4	12	7.3	0	0.2	0	0.7	4	2.1	8	3.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 設置場所はあぶらな科野菜ほ場近辺、芽室町はあぶらな科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

注2) 寄生幼虫数は10株あたりの値

E. りんご

1. 黒星病

発生量 多

<6月12日付け注意報第2号>

長沼町の予察園（無防除）における発生量は、「昂林」で平年より多かった。余市町の予察園（慣行防除）では「つがる」および「王林」ともに発生が認められた。

9月3半旬の巡回調査の報告によると、一般園においても発生が認められた。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	94.6	46.2	39.7	24.0	8
	つがる	28.7	39.6	6.8	19.7	8
余市町B	つがる	19.2	-	-	-	-
余市町C	王林	4.6	-	-	-	-

注1)長沼町は9月6半旬、余市町(慣行防除)は9月2週目のデータ

注2)ーは調査項目外または平年値なしを示す

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	3	22.0	2.3
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	3	8.5	0
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病

発生量 並

長沼町の予察園（無防除）における「王林」の発生量は、平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

巡回調査の報告によると、感受性品種を調査対象にしている渡島、留萌地方で発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	4.3	9.0	0.1	0.2	7
	王林(徒長枝)	5.3	5.7	0.1	0.1	7
余市町C	王林	0	-	-	-	-

注1)長沼町は9月6半旬、余市町(慣行防除)は9月4週目のデータ

注2)ーは調査項目外または平年値なしを示す

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	3	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	3	1.0	5.7
留萌	南留萌	1	38.3	21.6

3. モモシクイガ 発生量 やや少

長沼町の予察園におけるモモシクイガの産卵数は平年よりやや少なかった。予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より少なく、余市町では平年よりやや少なかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市および七飯町で平年並、札幌市および伊達市で平年よりやや少なく、壮瞥町で平年よりやや多かった。

予察園における産卵数、被害果率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	産卵数		被害果率(%)		フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町				長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	38	67.6	100	100.0	4	26.8	5.0	16.8	10.0	22.1
2半旬	18	37.8	100	100.0	3	21.3	6.1	8.3	10.6	12.5
3半旬	5	15.1	100	100.0	0	7.5	3.9	3.4	1.3	5.0
4半旬	9	1.3	100	100.0	0	1.2	0	1.3	1.0	3.6
5半旬					0	0.4	0	0.5	0	0.3
6半旬					0	0	0	0.1	1.0	0
平年数	10		10		10		10		10	

注1)産卵数は100果あたり

注2)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0.5	1.2	0	2.5	6.7	20.2	8.4	4.2	12.5	12.3
2半旬	1.3	1.0	0	0.7	7.9	13.0	5.0	2.8	7.3	7.8
3半旬	0.3	0.5	0	0.2	1.6	6.3	2.5	0.8	1.2	4.3
4半旬	0	0.1	0	0	0	5.0	1.5	0.5	3.3	1.6
5半旬	0	0.0	0	0	0	0.4	0	0.1	1.3	1.1
6半旬	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0.4
平年数	10		10		10		10		8	

注)岩見沢市の値は2地点の平均

4. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるリングハダニおよびナミハダニの発生は、いずれの地点においても認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リングハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	7.0	—	—	—	—	0	4.5	—	—	—	—
2半旬	0	0.8	0	2.8	0	3.0	0	0.6	0	3.9	0	4.7
3半旬	0	1.9	0	0.3	0	0.7	0	0.8	0	0	0	4.3
4半旬	0	0.3	0	2.7	0	5.4	0	0	0	3.9	0	2.6
5半旬	0	0.1	—	0.7	—	0	0	0.2	—	0	—	0
6半旬	0	0	0	0.1	0	1.4	0	0	0	1.7	0	5.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)30葉あたりの寄生虫数

注2)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

注3) —:未調査

5. キンモンホソガ 発生量 少

予察園における被害葉率は、長沼町で平年より低く、余市町で平年よりやや高かった。予察園におけるフェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町および余市町Bで平年よりやや少なく、余市町Aで平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、増毛町で平年よりやや多かったものの、他に地点においては平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	被害葉率(%)						フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	10	28.7	—	0.7	—	0	15	94.7	32.5	484.3	59.5	146.1
2半旬	7	31.6	2	2.4	2	0.7	71	79.0	65.9	606.2	103.5	258.7
3半旬	10	33.5	3	0.8	2	0	47	33.7	63.2	392.4	112.1	206.6
4半旬	16	39.1	3	2.3	2	0.9	17	11.2	50.8	245.0	109.7	100.4
5半旬	19	43.4	—	0.3	—	0.6	4	4.6	67.1	132.4	114.5	37.3
6半旬	28	44.9	3	2.1	2	0.7	0	1.7	16.9	29.7	35.3	23.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	8.0	141.7	0	13.1	0	19.0	42.4	603.4	0	58.9	968.2	649.2
2半旬	10.0	76.7	2.3	9.3	0	32.6	52.1	675.8	0.8	90.0	1051.3	526.2
3半旬	12.0	20.8	2.0	3.2	1.0	18.1	37.4	504.2	1.2	121.5	969.4	647.1
4半旬	3.5	7.1	0.6	1.0	1.0	10.8	28.9	459.4	0	121.6	768.6	527.9
5半旬	0	3.4	0.1	0.3	0	10.7	9.3	159.1	0.7	58.7	182.5	319.4
6半旬	0	2.9	0.5	0.2	0	2.9	3.2	72.6	0.3	30.0	124.1	143.3
平年数	10		10		10		10		8		10	

注)岩見沢市の値は2地点の平均

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。